

宮城県感染症発生動向調査情報

平成29年2月16日発行

— 2017.2.6～2017.2.12—第6週—

1. 集計

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							仙 台 市 患者数	宮 城 県 (含 む 仙 台 市)					
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼		患者数	累計	第3週	第4週	第5週	第6週
水痘	3 0.60	2 0.20		1 0.50	2 0.67		3 1.50	2 0.07	13 0.22	185	○	レ		
流行性耳下腺炎		2 0.20			2 0.67	1 0.20		5 0.19	10 0.17	71				
百日咳									0 0.00	1				
感染性胃腸炎	24 4.80	24 2.40	9 1.80	5 2.50	7 2.33	5 1.00		82 3.04	156 2.64	1,279	◎	◎	◎	◎
手足口病									0 0.00	7				
伝染性紅斑								1 0.04	1 0.02	13				
突発性発しん	2 0.40	5 0.50	1 0.20		2 0.67	1 0.20	1 0.50	12 0.44	24 0.41	145	○	○	○	レ
ヘルパンギーナ									0 0.00	6				
インフルエンザ	327 40.88	251 16.73	252 31.50	156 52.00	189 37.80	253 31.63	132 33.00	969 22.02	2529 26.62	14,659	◎	◎	◎	◎
咽頭結膜熱	1 0.20	3 0.30			2 0.67			4 0.15	10 0.17	61				
流行性角結膜炎	1 1.00					1 1.00			2 0.17	15				
急性出血性結膜炎									0 0.00	0				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34 6.80	32 3.20	3 0.60		6 2.00	44 8.80	1 0.50	64 2.37	184 3.12	954	◎	◎	◎	◎
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)									0 0.00	1				
無菌性髄膜炎									0 0.00	0				
マイコプラズマ肺炎				4 4.00		1 1.00	1 1.00	2 0.40	8 0.67	50				
クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0 0.00	0				
RSウイルス感染症	4 0.80							5 0.19	9 0.15	59				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)								1 0.20	1 0.08	3				
拡張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)	5				1	1		6		◎: 流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○: 発生または流行について、今後の情報に留意 レ: 発生が少なくなっている傾向			
	川崎病													
	不明発疹症								1					

※今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 49例

2. 全数報告疾病

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核

仙台管内 男性1名、女性2名、男児1名※

3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O91)

気仙沼管内 女性1名(第5週)

4類感染症: レジオネラ症

仙南管内 男性1名

5類感染症: アメーバ赤痢

仙南管内 男性1名(第5週)

侵襲性肺炎球菌感染症

石巻管内 男性1名

仙南管内 女性1名

梅毒

塩釜管内 男性1名

ウイルス性肝炎

仙台管内 男性1名

※男児は6歳未満

【定点把握対象疾患】

[インフルエンザ]

仙南、塩釜、大崎、栗原、登米、石巻、気仙沼、
仙台管内で警報継続中

[A群溶血性レンサ球菌咽頭炎]

仙南、石巻管内で警報継続中

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

感染性胃腸炎患者より

塩釜管内 第5週採取分 A群ロタウイルス 3件

インフルエンザ患者より

気仙沼管内 第4週採取分 インフルエンザウイルスAH3型 4件

石巻管内 第5週採取分 インフルエンザウイルスAH3型 1件

塩釜管内 第5週採取分 インフルエンザウイルスAH3型 1件

～仙台医療センターウイルスセンター～

	確 定	中 間 報 告	
	第3週採取分 (1.16～1.22)	第4週採取分 (1.23～1.29)	第5週採取分 (1.30～2.5)
インフルエンザウイルスA(H3)	6件	5件	0件
RSウイルス	2件	2件	0件
ヒメタヌーモウイルス	1件	0件	0件
ムンプスウイルス	1件	0件	0件

4. 今週のコメント

【レジオネラ症】

レジオネラ菌により、肺炎やポンティアック熱が引き起こされる疾患で、一般に高齢者など、免疫力が低下している場合に感染しやすく、重症化すると死に至ることもあります。2016年の県内の患者報告数は36例で、9割以上が男性の患者でした。レジオネラ菌は、環境中に広く存在し、この菌が含まれたエアロゾルを吸い込むことにより感染がおこります。疑わしい症状がでた場合には、早期に受診し治療を行うことが重要となります。

【インフルエンザ】

県内全体の患者報告数は2週連続して減少していますが、未だ全ての管内で警報レベルを超えており、患者数が多い状況は続いています。また、先週よりも患者報告数が増えている管内があり、注意が必要です。外出・帰宅時のうがい、手洗いの徹底などの予防対策を継続して行い、予防に努めてください。

宮城県定点週報告対象疾病の推移

